

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 「良い先生」と授業用クローン
総合教育研究部 部長
池上 良正
- 2016 年度「学生による授業アンケート」
(後期) 集計結果
- 生涯スポーツ演習Ⅱスキル・スポーツに対する
スキル・健康科学部門の取り組み
総合教育研究部
教授 江口 淳一
- 第 2 回 F D 研修会
- 学生が選ぶ
ベスト・ティーチング賞授賞式
- 平成 29 年度新規採用教員
オリエンテーション開催のお知らせ

「良い先生」と授業用クローン

総合教育研究部 部長

池上 良正

すべての人にとっての「良い人」はいないし、すべての人にとっての「悪い人」はいない。同じように、すべての学生にとっての「良い先生」「悪い先生」もないはずだ。そうは言っても、せっかく入った大学の4年間で、「良い先生」にひとりも出会わなかったということになると、いかにも残念な話だし、学校にとっても由々しき状況だろう。

学生ひとりひとりの性格や育った環境は多様で、追い求める夢にも幅があるから、それぞれの期待に応えようとすれば、大学としても多様な「個性」をもった教員たちを配備しておく必要がある。もちろん、ここでの「個性」とは、やりたい放題に自我を暴発させることではないし、「協調性」の反対語でもない。高品質の教育・研究を求めて、日々の内省と努力の積み重ねのうえで発揮される、独自の人間力のことである。

少し怖い近未来譚だが、学生から「最良の先生」と絶讃された人たちのDNAをプールし、それらを集めて作ったクローン人間を教員にした学校が開設されたとする。どの先生もいつも同じ笑顔で見分けがつかない、という難点さえ我慢すれば、学生による授業評価は飛躍的に向上し、教員への苦情がSNSで拡散されるようなトラブルも減るだろう。管理運営者にとっては好ましい状態かもしれないが、果たしてこれが「理想の学校」なのか。人間の世界は常に個性と個性のぶつかり合いだから、「良い」「悪い」も「好き」「嫌い」も比較的短期間で容易に反転するし、そもそも自分の生涯で本当に大切な価値を、短いタイムスパンの評価で判断できるとは限らない。

「同一名称の科目なら、シラバスもテキストも統一すべきだ」といった考え方も、そういう整合性に美意識を感じられる人たちは従えばよい。でも、これが全教員の規範だと言われると、うすら寒い気分になる。ならば個性的で、それゆえに扱いが厄介な教員をわざわざ高い給料で雇うより、時の教育課程を忠実に履行できる授業用クローンでも開発し、大量生産した方が得策ではないか、といった悪態のひとつも吐きたくなってくる。

まあ、これはこれで、私自身の困った「自我の暴発」なんだろうけれど……

2016 年度「学生による授業アンケート」(後期) の集計結果について

2016 年度「学生による授業アンケート」(後期)を以下のとおり実施した。

実施日	平成 28 年 11 月 9 日(水)～11 月 30 日(水)
対象科目	1,757 科目
対象者数	141,106 人(延べ人数)
実施科目数	1,757 科目
有効回答数	60,514 件(42.9%)

【質問項目】

Q1. 所属学部学科等

20 : 仏教 19 : 国文 18 : 英米文 17 : 地理 16 : 日本史学
15 : 外国史学 14 : 考古学 13 : 社会学 12 : 社会福祉学
11 : 心理 10 : 経済 9 : 商 8 : 現代応用経済 7 : 法律 A
6 : 法律 B 5 : 政治 4 : 経営 3 : 市場戦略
2 : 診療放射線技術科 1 : グローバル・メディア

Q2. 学年

5 : 4 年 4 : 3 年 3 : 2 年 2 : 1 年 1 : その他

Q3. どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。

11 : 一般入試 10 : 大学入試センター試験利用入試
9 : 一般推薦入試 8 : スポーツ推薦入試 7 : 指定校推薦
6 : 附属校推薦入試 5 : 留学生特別入試
4 : 帰国生特別入試 3 : 編入学試験 2 : その他の試験
1 : 回答しない

Q4. この授業を何回欠席しましたか。

5 : 0 回 4 : 1～2 (半期科目)、1～4 (通年科目) 回
3 : 3～4 (半期科目)、5～9 (通年科目) 回
2 : 5～6 (半期科目)、10～13 (通年科目) 回
1 : 7 (半期科目)、14 (通年科目) 回以上

Q5. どのような理由でこの授業を履修しましたか。(複数選択可)

7 : シラバスを見て授業内容に興味を持った
6 : シラバス以外の情報(友人等)により、授業内容に興味を持った
5 : 履修モデル(コース制等)を見て決めた
4 : 資格の取得

3 : 必修科目または選択必修科目だったから

2 : 時間割(曜日時限)を考慮して決めた

1 : その他

Q6. この授業の予習にあてている時間は 1 週間に何時間くらいですか。

Q7. この授業の復習にあてている時間は 1 週間に何時間くらいですか。

(Q6・7 選択肢)

5 : 4 時間以上

4 : 3 時間以上～4 時間未満

3 : 2 時間以上～3 時間未満

2 : 1 時間以上～2 時間未満

1 : 1 時間未満

Q8. あなたは授業に熱心に取り組んでいますか。

Q9. 授業はほぼ定刻通りに実施されていますか。

Q10. 通常通り、授業回数は確保されていますか。(補講・YeStudy 等による課題授業含む)

Q11. 授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていますか。

Q12. この授業の進み方はあなたにとって適切ですか。

(Q8～12 の選択肢は 3 ページに記載)

Q13. 教科書・配付資料等は授業内容を理解するうえで効果的ですか。

5 : とてもそう思う

4 : そう思う

3 : どちらとも言えない

2 : あまりそう思わない

1 : 全くそう思わない

0 : 教科書・配付資料等がない授業

Q14. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられますか。

Q15. 教員の話し方・声のボリュームは聞き取りやすいですか。

(Q14・15 の選択肢は 3 ページに記載)

Q16. 板書や投影されたスクリーンの文字・図表等は見やすいですか。

5 : とてもそう思う

4 : そう思う

3 : どちらとも言えない

2 : あまりそう思わない

1 : 全くそう思わない

0 : 板書・スクリーンへの投影がない授業

Q17. 教員は授業内容に沿った授業環境・雰囲気づくりに配慮していますか。

(Q17 の選択肢は Q21 の後に記載)

Q18. 教員はあなたの意見や質問に対して適切に対応していますか。

5: とてもそう思う

4: そう思う

3: どちらとも言えない

2: あまりそう思わない

1: 全くそう思わない

0: あなたが当該授業において意見・質問をしたことがない場合

Q19. この科目の授業内容についてよく理解できていますか。

Q20. 授業内容に興味を持っていますか。

Q21. あなたはこの授業の到達目標を達成できると思いますか。

(Q8～12・14・15・17・19～21 選択肢)

5: とてもそう思う

4: そう思う

3: どちらとも言えない

2: あまりそう思わない

1: 全くそう思わない

Q22. 教員自由設定質問

Q23. この授業のよかった点を具体的に記入してください。

Q24. この授業の改善してほしい点を具体的に記入してください。

【学年別平均値】

表 1 はアンケート質問項目 (Q4・6～21) の学年別平均値を示したものである。

表 1 学年別の平均値

学年別	1 年	2 年	3 年	4 年	その他
Q 4 平均値	4.3	4.2	4.1	3.7	3.7
Q 6 平均値	1.2	1.3	1.3	1.3	1.9
Q 7 平均値	1.2	1.3	1.3	1.4	1.9
Q 8 平均値	3.7	3.7	3.8	3.7	3.6
Q 9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.3	3.9
Q12 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	3.6
Q13 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	3.3
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.0
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.0
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.6
Q17 平均値	4.0	4.1	4.1	4.2	3.9
Q18 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.0
Q19 平均値	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7
Q20 平均値	3.8	3.9	3.9	4.0	3.7
Q21 平均値	3.7	3.8	3.8	3.8	3.6
有効回答数	25,614	15,459	9,484	2,825	49

【入試形態との関連】

2010年度より、入試形態と学生の授業への取り組み（出席状況、予習・復習時間など）との関連を把握するために入学試験タイプの質問を追加している（Q3）。なお、回答は任意とした（回答率99.4%）。（表2 入試形態別の項目別平均値）

表2 入試形態別の項目別平均値（Q4・6～21）

入試形態別	一般入試	大学入試センター試験 利用入試	一般推薦入試	スポーツ推薦入試	指定校推薦入試	附属校推薦入試	留学生特別入試	帰国生特別入試	編入学試験	その他	回答しない
Q4 平均値	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.3	4.1	4.2	4.3	4.1
Q6 平均値	1.2	1.3	1.2	1.3	1.3	1.2	1.8	1.7	1.4	1.2	1.4
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.9	1.7	1.5	1.3	1.3
Q8 平均値	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	4.2	3.9	4.0	3.9	3.6
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.4	4.2	4.4	4.4	4.1
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.5	4.2	4.4	4.4	4.2
Q11 平均値	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.4	4.1	4.4	4.2	4.0
Q12 平均値	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	4.3	3.9	4.2	4.0	3.7
Q13 平均値	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	4.2	3.7	4.1	4.0	3.8
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.4	4.2	4.5	4.3	4.1
Q15 平均値	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.1	4.4	4.2	4.1
Q16 平均値	3.9	3.8	3.8	3.9	3.9	3.8	4.4	4.0	4.2	4.0	3.8
Q17 平均値	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.0	4.4	4.1	4.3	4.1	4.0
Q18 平均値	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.0	4.4	4.1	4.4	4.1	3.9
Q19 平均値	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	4.2	3.9	4.1	3.7	3.7
Q20 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	4.2	3.9	4.2	3.9	3.8
Q21 平均値	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	4.2	3.9	4.1	3.8	3.6
有効回答数	28,892	5,346	5,251	1,474	6,073	4,406	789	101	387	377	335

【学部学科・専攻・部門別集計結果】授業担当者の所属別に、専任教員と非常勤教員を分けて集計をした。

表3 教員所属の学科・専攻・部門別平均値 (Q4・6~21)

(学部)学科・専攻・部門	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値		4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	3.8	4.3	4.4	4.3
Q6 平均値		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.4	1.2
Q7 平均値		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.4	1.3	1.3	1.2
Q8 平均値		3.4	3.4	3.2	3.6	3.6	3.5	3.8	3.8	3.8
Q9 平均値		3.9	3.9	4.2	4.1	4.0	4.4	4.2	4.2	4.3
Q10 平均値		4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値		4.0	4.0	3.9	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.3
Q12 平均値		3.9	3.9	3.5	3.9	3.9	3.8	4.1	4.0	4.1
Q13 平均値		3.7	3.7	4.0	3.8	3.8	4.0	4.2	4.2	4.3
Q14 平均値		4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.4	4.4	4.4
Q15 平均値		4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.4	4.3	4.4
Q16 平均値		3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	4.1	4.0	4.1
Q17 平均値		3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	4.1	4.3	4.2	4.3
Q18 平均値		4.0	4.0	4.2	4.0	3.9	4.2	4.2	4.2	4.3
Q19 平均値		3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9
Q20 平均値		3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.8	4.0	4.0	4.1
Q21 平均値		3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	3.8	3.7	3.9
有効回答数		1,491			2,194			1,323		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 英米文			(文) 地域文化			(文) 地域環境			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値		4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値		1.3	1.4	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2
Q7 平均値		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値		3.9	3.9	4.1	3.7	3.7	3.9	3.8	3.8	3.7
Q9 平均値		4.3	4.2	4.4	4.2	4.1	4.3	4.3	4.3	4.1
Q10 平均値		4.4	4.4	4.4	4.3	4.2	4.4	4.3	4.4	4.2
Q11 平均値		4.3	4.3	4.3	4.2	4.1	4.3	4.2	4.3	4.0
Q12 平均値		4.1	4.1	4.2	4.0	3.8	4.2	4.0	4.0	4.0
Q13 平均値		4.1	4.0	4.3	3.9	3.8	4.2	4.1	4.1	4.0
Q14 平均値		4.4	4.4	4.4	4.1	4.1	4.3	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値		4.2	4.1	4.4	4.0	3.9	4.3	4.3	4.3	4.3
Q16 平均値		4.2	4.2	4.2	3.9	3.7	4.1	3.9	3.9	4.0
Q17 平均値		4.2	4.2	4.3	4.0	3.9	4.2	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値		4.3	4.2	4.3	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1	4.1
Q19 平均値		4.0	4.0	4.2	3.7	3.6	4.0	3.7	3.7	3.9
Q20 平均値		4.0	4.0	4.1	3.8	3.7	4.0	3.9	3.9	3.9
Q21 平均値		4.0	3.9	4.0	3.7	3.6	3.9	3.8	3.8	3.7
有効回答数		992			933			623		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 日本史学			(文) 外国史学			(文) 考古学		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.3	4.4	4.2	4.2	4.4	4.1	4.3	4.5	4.2
Q6 平均値	1.2	1.2	1.3	1.3	1.2	1.4	1.1	1.1	1.2
Q7 平均値	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.1	1.2
Q8 平均値	3.7	3.8	3.7	3.8	3.9	3.8	3.7	3.7	3.7
Q9 平均値	4.0	3.8	4.2	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2
Q10 平均値	4.2	4.1	4.3	4.3	4.1	4.4	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.1	4.1
Q12 平均値	3.9	3.8	3.9	4.0	4.0	4.1	3.8	3.9	3.7
Q13 平均値	3.9	3.8	4.0	3.7	3.4	4.0	3.8	4.0	3.5
Q14 平均値	4.0	4.0	4.1	4.3	4.3	4.4	4.2	4.3	4.1
Q15 平均値	4.0	3.9	4.1	4.2	4.2	4.3	3.9	4.0	3.7
Q16 平均値	3.7	3.5	3.8	3.9	4.0	3.9	3.6	3.8	3.4
Q17 平均値	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	3.9
Q18 平均値	4.0	3.9	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	3.9
Q19 平均値	3.7	3.6	3.7	3.8	3.6	3.9	3.6	3.7	3.5
Q20 平均値	3.8	3.7	3.8	4.0	3.9	4.1	3.8	3.9	3.6
Q21 平均値	3.6	3.6	3.7	3.8	3.7	3.9	3.6	3.7	3.5
有効回答数	1,214			936			500		

(学部)学科・専攻・部門	(文) 社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.3	4.3	4.4	4.3
Q6 平均値	1.3	1.2	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.2
Q7 平均値	1.4	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値	3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7
Q9 平均値	4.2	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	4.5	4.3
Q10 平均値	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.5	4.4
Q11 平均値	4.2	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値	3.8	4.0	3.6	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	4.0
Q13 平均値	3.1	3.9	2.4	4.0	4.2	3.9	3.9	4.1	3.9
Q14 平均値	4.1	4.3	3.9	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.2
Q15 平均値	3.7	4.0	3.4	4.2	4.4	4.1	4.1	4.1	4.1
Q16 平均値	3.4	3.5	3.4	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	4.0
Q17 平均値	3.9	4.0	3.8	4.2	4.3	4.0	4.1	4.2	4.1
Q18 平均値	3.7	3.9	3.6	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2
Q19 平均値	3.6	3.8	3.5	3.8	3.9	3.8	3.7	3.6	3.7
Q20 平均値	3.7	3.8	3.7	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9
Q21 平均値	3.6	3.8	3.5	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.7
有効回答数	519			657			2,079		

(学部)学科・専攻・部門	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値		4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4
Q6 平均値		1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.2
Q7 平均値		1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値		3.8	3.7	3.9	3.7	3.8	3.6	3.9	3.9	3.9
Q9 平均値		4.2	4.0	4.3	4.1	4.1	4.1	4.2	4.3	4.1
Q10 平均値		4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.3
Q11 平均値		4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2
Q12 平均値		4.0	3.8	4.1	3.9	4.0	3.9	4.1	4.1	4.0
Q13 平均値		3.9	3.7	4.2	3.9	3.9	3.9	4.1	4.2	4.0
Q14 平均値		4.2	4.1	4.3	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.2
Q15 平均値		4.2	4.1	4.3	4.1	4.2	3.9	4.3	4.3	4.2
Q16 平均値		4.0	3.8	4.2	3.8	3.9	3.7	4.0	4.1	3.9
Q17 平均値		4.1	4.0	4.2	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1
Q18 平均値		4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	3.9	4.1	4.2	4.0
Q19 平均値		3.8	3.7	4.0	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9
Q20 平均値		3.9	3.7	4.0	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0	3.9
Q21 平均値		3.8	3.7	4.0	3.8	3.8	3.7	3.9	4.0	3.9
有効回答数		3,589			1,589			1,784		

(学部)学科・専攻・部門	(法) 法律			(法) 政治			(経営) 経営			
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q4 平均値		4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2
Q6 平均値		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3
Q7 平均値		1.4	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
Q8 平均値		3.6	3.5	3.6	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.8
Q9 平均値		4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2
Q10 平均値		4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3
Q11 平均値		4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2
Q12 平均値		3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0
Q13 平均値		3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0
Q14 平均値		4.0	4.0	4.1	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2
Q15 平均値		3.9	3.9	4.0	4.1	4.0	4.2	4.1	4.0	4.2
Q16 平均値		3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.9	3.9	3.9	3.9
Q17 平均値		3.9	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.1
Q18 平均値		3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0
Q19 平均値		3.5	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8
Q20 平均値		3.7	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9
Q21 平均値		3.5	3.5	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.8
有効回答数		4,542			2,889			3,181		

(学部)学科・専攻・部門	(経営)市場戦略			(医療健康科)			(GMS)		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.2	4.2	4.0	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.2	1.3	1.3	1.3
Q8 平均値	3.6	3.5	3.9	3.7	3.8	3.6	3.9	3.8	4.0
Q9 平均値	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	3.8	4.4	4.4	4.4
Q10 平均値	4.2	4.2	4.3	4.3	4.4	4.0	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.1	4.0	4.2	4.2	4.2	3.9	4.3	4.3	4.4
Q12 平均値	3.7	3.7	3.9	3.9	4.0	3.6	4.0	4.0	4.2
Q13 平均値	3.7	3.6	3.8	4.0	4.1	3.4	3.8	3.8	3.8
Q14 平均値	4.0	3.9	4.0	4.2	4.3	3.8	4.3	4.3	4.4
Q15 平均値	3.8	3.8	3.9	4.1	4.1	3.9	4.3	4.2	4.4
Q16 平均値	3.6	3.5	3.9	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.2
Q17 平均値	3.8	3.8	3.9	4.1	4.1	3.8	4.2	4.2	4.2
Q18 平均値	3.9	3.9	4.0	4.1	4.2	3.7	4.3	4.2	4.3
Q19 平均値	3.5	3.5	3.8	3.7	3.7	3.4	3.9	3.8	4.1
Q20 平均値	3.6	3.6	3.9	3.9	3.9	3.6	4.0	4.0	4.1
Q21 平均値	3.6	3.5	3.8	3.8	3.8	3.4	3.8	3.8	4.0
有効回答数	2,084			1,146			1,414		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究)文化学			(総合教育研究)自然科学			(総合教育研究)日本文化		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1
Q7 平均値	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
Q8 平均値	3.6	3.6	3.6	3.7	3.8	3.7	3.9	3.8	4.0
Q9 平均値	4.1	4.1	4.1	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3
Q10 平均値	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4
Q11 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.1	4.3	4.3	4.2
Q12 平均値	3.9	4.0	3.9	4.0	4.2	3.8	4.2	4.2	4.1
Q13 平均値	3.8	3.9	3.8	3.9	4.1	3.7	4.2	4.2	4.1
Q14 平均値	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	4.1	4.4	4.4	4.3
Q15 平均値	4.0	4.2	3.9	4.1	4.2	4.0	4.4	4.4	4.2
Q16 平均値	3.7	3.9	3.7	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.0
Q17 平均値	3.9	4.1	3.9	4.0	4.1	3.9	4.2	4.3	4.1
Q18 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9	4.2	4.3	4.2
Q19 平均値	3.6	3.7	3.6	3.8	3.9	3.6	4.0	4.0	4.0
Q20 平均値	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8	4.1	4.1	4.1
Q21 平均値	3.6	3.7	3.6	3.8	3.9	3.7	4.0	4.0	3.9
有効回答数	4,162			1,556			943		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 外国語第一			(総合教育研究) 外国語第二			(総合教育研究) スポーツ・健康科学		
	専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任
Q4 平均値	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値	1.4	1.3	1.4	1.4	1.3	1.4	1.1	1.1	1.1
Q7 平均値	1.3	1.3	1.3	1.5	1.4	1.5	1.1	1.1	1.1
Q8 平均値	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	4.3	4.3	4.3
Q9 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.4	4.3	4.4
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.4
Q11 平均値	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4
Q12 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0	4.3	4.3	4.3
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	3.9	3.9	4.0
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4
Q15 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.5	4.5	4.5
Q16 平均値	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	4.3	4.3	4.3
Q17 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.4	4.4	4.4
Q18 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4
Q19 平均値	3.9	4.0	3.9	3.8	3.6	3.8	4.3	4.3	4.3
Q20 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	4.3	4.3	4.3
Q21 平均値	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.8	4.2	4.2	4.2
有効回答数	5,280			2,314			2,299		

(学部)学科・専攻・部門	(総合教育研究) 教職課程		
	専任・非常勤区分	全体	専任
Q4 平均値	4.4	4.3	4.4
Q6 平均値	1.2	1.2	1.2
Q7 平均値	1.2	1.3	1.2
Q8 平均値	3.9	4.0	3.9
Q9 平均値	4.4	4.5	4.3
Q10 平均値	4.4	4.5	4.3
Q11 平均値	4.3	4.5	4.3
Q12 平均値	4.1	4.2	4.1
Q13 平均値	4.2	4.3	4.1
Q14 平均値	4.3	4.4	4.2
Q15 平均値	4.3	4.3	4.3
Q16 平均値	4.0	4.2	3.9
Q17 平均値	4.2	4.3	4.2
Q18 平均値	4.2	4.3	4.2
Q19 平均値	4.0	4.0	4.0
Q20 平均値	4.1	4.1	4.1
Q21 平均値	4.0	4.0	4.0
有効回答数	1,119		

「学生による授業アンケート（後期）」集計結果の概況について

2016年度の「学生による授業アンケート（後期）」は、昨年11月9日（水）から30日（水）の期間にかけて実施された。アンケートの方法及び内容は、前期と同じ形式で行なわれた。

今回の対象科目数は専任・非常勤合計で1,757科目、対象者数（延べ人数）は141,106人、有効回答数は60,514件で、学生回答率は42.9%であった（今年度前期は52.1%）。例年、後期は前期に比べて回答率が落ち込む傾向がみられるが、今回も同様であった。以下、全般的傾向について概況を述べてみたい。

学年別の回答率は、例年と同様に学年が進むにつれて回答率が下がる傾向がみられ、1年生60.5%、2年生40.5%、3年生33.7%、4年生19.8%となっている。なお2年生を除き、昨年度後期の結果からは回答率が若干向上している。

教員の所属別の学生回答率一覧をみると、仏教学部、文学部の3つの学科、医療健康科学部、総合教育研究部の3つの部門が50%以上で、中でも総合教育研究部の外国語第二部門とスポーツ・健康科学部門では60%台と特に高くなっている。回答率は履修学生数とも関係してくるが、昨年度には後期に60%を超える学科等はなかったため、今回の外国語第二部門とスポーツ・健康科学部門は回収率がかなり高いといえよう。

専任・非常勤別の学生回答率は、専任担当科目42.8%、非常勤担当科目42.9%であり、非常勤担当科目のほうがわずかに高いが、昨年度後期や今年度前期から比べると、専任と非常勤との差は小さくなっている。

アンケート対象科目を担当する教員のC-Learningへの最終ログイン状況（12月14日現在）をみると、専任では実施期間内のログインが26.8%、実施後のログインが45.8%で、未ログインは4.6%となっている。いっぽう非常勤では実施期間内のログインが17.2%、実施後のログインが20.8%で、未ログインは20.8%となっている。未ログイン率はいずれも昨年度後期より改善されているが、非常勤の先生方への周知が課題の1つといえよう。

質問項目についてであるが、項目数は前期と同じ

24項目で実施された。具体的内容は別途記載の通りであるが、分類すると「学生の属性（Q1～Q3）」、「学生自身の自己評価（Q4～Q8）」、「休講・開始（終了）時間（Q9～Q10）」、「シラバス（Q11）」、「授業の進み具合・配布資料等（Q12～Q13）」、「教員の熱意・授業運営（Q14～Q18）」、「学生自身の理解度・興味・達成度（Q19～Q21）」、「教員自由設定質問（Q22）」、「自由回答（Q23～Q24）」となっている。ここでは、本学の状況を示していると思われるいくつかの設問について結果の概略をみてみたい。

授業への出欠（Q4）については、入試形態別では前期ほどのばらつきはないものの、指定校推薦入試・附属校推薦入試・留学生特別入試で高く、スポーツ推薦入試・センター試験利用入試・帰国生特別入試で低くなっている。学年別では、これまで同様、学年が進むほど欠席が多くなる傾向がみられる。学部学科別では、これも例年同様、医療健康科学部が4.7と非常に高い結果となっている。

シラバス（Q11）について学年別にみると、昨年度後期からの上昇幅はわずかではあるものの、1年生・3年生で若干上昇している。今年度より、シラバスに「学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について」という項目が追加されたが、シラバスとその活用については引き続き重要な課題である。

教員の熱意・授業運営（Q14～Q18）については、これも昨年度後期と同様、学年が上がるとともに満足度が若干ながら増す傾向がみられる。これは学年ごとの回答者数が大きく異なることもあるが、上級生のほうが科目選択の自由度が高いことも関係しているものと思われる。

以上、結果の概略について触れてきた。FD推進小委員会の教育質保証ワーキング・グループでは、これまで設問内容の工夫や回収率の向上にむけてさまざまな検討を重ね、各年度の授業アンケートを改善してきている。今後の課題としては、回収率を向上させるための学生のモチベーションの維持・向上にむけた取り組み（周知方法の見直し、フィードバックの強化、学生FDスタッフの活用など）、質問項目の見直し（簡略化、経年変化への対応）、対象外科目の見直し、などが挙げられる。教育の質の向上に授業アンケートは欠かせないものであり、今後さらなる検討が重ねられることを望む。

（長尾 譲治）

連載企画：よりよい教育のために

生涯スポーツ演習Ⅱスキー・スノーボードに
対するスポーツ・健康科学部門の取り組み

総合教育研究部 教授 江口 淳一

以前FDハンドブックに自身の専門であるテニスの授業に関して書かせていただいたので、今回は、「生涯スポーツ演習Ⅱスキー・スノーボード」について、スポーツ・健康科学部門の取り組みを紹介させていただく。

現在の「生涯スポーツ演習」は平成7年度カリキュラム改革以前、1.5年の体育実技必修科目として履修が義務付けられていた時代、2年次の半期科目をシーズンコースのスキー実習合宿授業に置き換えられる形で開設されていた科目であった。選択必修科目であったため、履修者の上限は100名。受付時には履修のため徹夜組も出るほど人気のあった科目である（先着順でWeb登録もない時代）。

これが、最初のカリキュラム改革により選択科目となり、費用がかかるにもかかわらず1単位しか取れないこと。実習地のゲレンデの問題、スキー人口の減少も追い打ちをかけ、一時20名弱まで履修者を減らしてしまったのである。

危機感を持った当時の保健体育部は、まず、実習地を上越方面からスキーリゾートとして名高い東北の安比高原に変更し、実習環境の改善を図った。さらに新しいウィンタースポーツとして学生に人気の出てきたスノーボードを実習種目に加え履修者の増員を目指すことにしたのである。

当時、スキー場の一部ではスノーボードは禁止などと、まだまだこのニュースポーツは認知されておらず、危険な種目であることばかりが報告される時代であった。当然のことながら、教員の側にもスノーボード経験者がほとんどいない。当時、数名の若手教員が大学体育連合の冬季研修会やスキー・スノーボード研究会に積極的に参加し、技術を獲得し、さらに安全に実習するための指導法を学び、検定合格など必要な準備が整ったと判断した年からボードの導入が決定したのである。スキーに加えスノーボードの導入により履修者数が増加に転じ、さらにその後、数回の事前授業や現地での夜間講義を実施し、2単位の演習科目として開

講することで、現在の履修上限である60名は必ず確保できる科目となるまで回復したのである。

その後、予算上の問題から、上越方面に戻って実施する時期もあったが、やはり安全面、実習のしやすさから、現在は再度安比高原にて演習を行なっている。リピート率の高い授業で、アンケート調査結果から、実習後の学生の満足度も非常に高いと分析している。

スポーツ・健康科学部門では、演習科目は授業評価アンケートの対象科目ではない中、独自のアンケートを早期から実施し、学生ニーズの把握に努め、実習環境の改善、新種目の導入、より良い指導法の研鑽、教員個人の技術研修にとどまらず、各教員の専門領域を超えた教授法の研修など、FD活動を積み重ねてきた。また、ビデオや、最近ではスマホやタブレットを活用し、学生自らの滑りを即座に画像で確認しながら、練習にフィードバックさせるなど、単にゲレンデで滑走技術の習得を目指すだけでなく、スポーツ科学を通して、ウィンタースポーツやスノーアクティビティの魅力を伝え、生涯スポーツとしての基礎を養うという目的を達成してきたつもりである。

体育実技科目は、究極のアクティブラーニングであり、学生の専攻する分野とスポーツは必ずどこかで連携する可能性がある（例えば：自然環境とスポーツ。スノースポーツとリゾート経営。スポーツ事故における訴訟問題。国際化する日本のゲレンデ。失敗とチャレンジのメンタルなど挙げればきりが無い）。また、特にスキー・スノーボードは合宿形式の能力別のグループ学習であり、グループ内の仲間と様々な論議や練習を重ね、学部学科を超えたコミュニケーション力をスポーツを通して養うことができる科目なのである。

駒澤大学が、このスポーツが持つ文化的価値を認め、スポーツ・健康科学分野への理解をさらに深めてくれることを切に期待する。



第 2 回 F D 研修会

平成 28 年度第 2 回 FD 研修会は、2 月 1 日（水）16 時 20 分から 17 時 30 分まで中央講堂で行われた。テーマは「新しい教育方法と教育活動の質の向上」で、山梨大学大学院総合研究部工学域教授、山梨大学教育国際化推進機構大学教育センター副センター長の森澤正之先生に、「反転授業を組み合わせたアクティブラーニングの実践」というタイトルの下、ご講演いただいた。

ところで、「反転授業」について FD 研修会等で学内教員に周知を図ることは、「学校法人駒澤大学施策体系」（平成 26 年～平成 29 年度）に係る『中期事業計画書』において、明示的に計画されていた。そこで「反転授業」は、「アクティブラーニング」、「PBL」、「ICT 教育の推進」とともに、「対面授業（学習）の多様化推進」という具体的な行動計画の中核となっており、「アクティブラーニング」をテーマとした前年度の研修会に続き、今回「反転授業」についての研修会が開催されたことは、本学の大学教育改革が確実に前進していることを示している。

とはいえ、森澤先生の講演タイトルが示しているように、「アクティブラーニング」と「反転授業」は別個独立に併存するものではない。むしろ「アクティブラーニング」を成功させるためには、「反転授業」の導入がほとんど不可避であることが、森澤先生のご講演において示されていたように思う。

講演資料から、FC+AL 導入のポイントをいくつか引用しておきたい（先生は「反転授業」を FC、「アクティブラーニング」を AL と略記している）。「反転授業は授業のオンライン化ではない！ 事前学習動画は手段の一つ。ビデオが素晴らしければ、うまくいくわけではない。対面授業との連携こそが鍵！」、「15 分の事前学習動画で、対面授業の 30～50 分のアクティブラーニングの時間が取れる」、「事前学習をしてこなかったら → 最初は 25% くらいの学生がしてこなくても大丈夫。妥協しない。最初が肝心」、「正直教師の準備作業量は増える。事前学習動画の作成より、FC と連携した AL の設計が大変。しかし、教員の目に見える効果がある」、「反転できない授業はない」

会場からは、学生数が何人までならうまくいくか、4 人グループをどう作ったらよいか、授業準備の負担は徐々に減るかなど、多数の質問が出された。森澤先生

からは、60 人を超えると TA が必要になる、グループは自由に作らせるが固定ではなく、2+2 に分かれる形で新グループを作る、授業準備はいろいろと改善したくなるので、年度を経てもなかなか減らない、とのご回答があった。

教員参加者 93 名の盛会となり、本学における FD 推進活動の着実な進展が実感された。

（東 辰之介）



（森澤正之先生）

学生が選ぶベスト・ティーチング賞授賞式

今期の FD 推進委員会にて取り組んだ新制度の一つが「学生が選ぶベスト・ティーチング賞（以下、BTA: Best Teaching Award）」である。これまでも授業評価アンケートなど、個々の授業について受講生からの評価を受ける制度は継続してきたが、本学全体の教育の質を向上させることを目的として、学生から見て効果的であると思われる教育方法のベスト・プラクティスを共有する仕組みではなかった。

また BTA は、学生ができる限りアンケートを考え、広報、実施、選考し、その結果を FD 推進委員会小委員会に報告するというもので、学生が主体性を発揮して FD に参画するという意味で画期的な制度改革である。

このために「学生 FD スタッフ」という制度をつくり、平成 28 年秋にボランティアに学生を募集し、多様な学科・学年からの 13 名の学生によりスタートした。彼らには、BTA 以外のワーキンググループにも参加してもらい、シラバスおよび学生アンケートの改善策についての活発な意見交換をして頂き、フレッシュで有

益な視点をもたらしてくれた。わずかな期間にこのFD制度に対して集中的に協力してくれたことに対して、改めて謝意を申し上げたい。今後も、本学がFD推進していく上で、非常に貴重なパートナーとして位置づけられることであろう。

さて今回のBTAでは、全学生に授業の内容を理解しやすくするための工夫がなされている科目を1つ挙げてもらい、かつ単なる人気投票や履修が容易な科目ではないことを理解し、具体的なエピソードを書くことを義務とした（これらの条件に合わないものは投票数から外した）。

投票期間は、平成28年11月9日（水）～11月30日（水）とし、厳選なる選考の結果、上位3名の先生が選考され、平成29年2月1日（水）に授賞式が行われた。FD推進委員会委員長である廣瀬良弘学長から表彰状が渡され、学生FDスタッフから花束が贈呈された。

「経営戦略論」の経営学部中村公一先生からは、学生目線から経営学の面白さを実感できるように、先生の得意分野をケースなどを使って講義されていることが報告された。学生のアンケートからも、漫画のワンピースやジャニーズといった学生が興味関心を引くテーマを先生が熱く語り、伝わりとの評判であった。またミニレポートは理解を深めるのに役立ち、良いレポートは講義中に取り上げられ、モチベーションが高まるという声もあった。

「市場戦略概説」の経営学部兼村栄哲先生からは、膨大な配布資料を準備して基本事項を徹底的にわかりやすく、かつ詳細に板書中心で講義されていること、さらに関連科目とのつながりを説明し、カリキュラム全体と担当講義との整合性を重視していることが報告された。学生のアンケートからも、具体的な商品名や企業名が多く、また板書の図や字はきれいで分かりやすい、レジュメも見やすいので予習復習がしやすいとの評判であった。

「心理学」の文学部小野洋平先生からは、自らが学部出身者であるため非常勤講師でも学科の先生方との連携を取りながら、かつ受講学生の興味や理解力に配慮して講義を工夫されていることが報告された。学生のアンケートからも、板書と説明の時間は分けてくれるためノートを取ってから説明が聞けて分かりやすい、図や動画といった参考資料が挿入されていて理解が深まるとの評判であった。

各先生方が得手不得手はそれぞれありながらも、個

性を生かして創意工夫がなされていることを知り、参加者もいろいろな刺激や取り入れるべき工夫があったかと思う。改めて授賞された先生方には厚くお礼を申し上げたい。

また、学生アンケートでは、学生理解度に合わせた進捗の工夫がある講義や、資料や動画といった立体的な工夫がなされている講義、作成したレポートも講義で取り上げたり皆で共有できる仕組みがある講義が高い評価を得ていた。

以上からもベスト・プラクティスを共有するという本制度の目的は果たされたかと思う。

さて、今回のBTAでは初回ということで投票数のみで選考した。今後は、投票結果を分析した上で、例えば履修者数に対する投票数の割合や、講義形式や受講生規模などによって、適切な選考手法を検討していくことも必要であろう。

（FD推進委員会小委員会副委員長 青木 茂樹）



（左から、桑田禮彰副学長、小野洋平先生、中村公一先生、兼村栄哲先生、廣瀬良弘学長）



（授賞式の様子）

平成 29 年度新規採用教員オリエンテーション 開催のお知らせ

新規採用の専任教員及び非常勤講師を対象にした「平成 29 年度新規採用教員オリエンテーション」を、平成 29 年 4 月 1 日（土）に本部棟中央講堂にて開催いたします。

オリエンテーションを開催する目的は、本学の建学の理念、教育目的を理解いただき、授業に臨んでいただくこと、本学の様々な施設や事務手続きをお知らせし、授業を円滑に進めていただきたいこと、そして実際の授業運営にあたって、個人情報保護やハラスメント防止に留意していただきたいこと等をお伝えすることにあります。

編集後記

『FD NEWSLETTER 第 50 号』をお届けします。

巻頭言は、総合教育研究部長の池上良正先生にご執筆いただきました。また、連載企画「よりよい教育のために」は、総合教育研究部スポーツ・健康科学部門の江口淳一先生にご執筆いただきました。さらに、本年度後期の学生アンケートの分析結果については、文学部の長尾譲治先生に、本年度第 2 回 FD 研修会については、総合教育研究部の東辰之介先生に、ベスト・ティーチング賞授賞式については、経営学部の青木茂樹先生に、それぞれご執筆をいただきました。先生方には、年度末のご多忙の折に多大なるご協力をいただきましたこと、ここに深く感謝申し上げます。

2 月 1 日に行われた本年度第 2 回 FD 研修会では、山梨大学の森澤正之先生を講師にお招きし、「反転授業を組み合わせたアクティブラーニングの実践」のご講演をいただきました。また、その後の「ベスト・ティーチング賞」授賞式では、受賞なされた 3 名の先生方から、ご自身の授業での実践や考え、深い思いなどを聞くことができました。様々な活動を通して、本学においてよりよい授業を作っていくという意識が強く

根付いていることを感じることができました。

私たち現 FD 推進委員会委員が委員を務めていたこの 2 年間は、FD 活動が今までにもまして大きな動きを示した時期でありました。「学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について」のシラバスへの記載、FD 研修会の年 2 回の実施、公開授業の充実への取り組み、「ベスト・ティーチング賞」の新設等々、概観するだけでも多くの試みと成果を見ることができます。よりよい授業、教育を実現していこうという取り組みに終わりはありません。今後も、全学の教職員が知恵を出し合って、さらなる高みを目指して不断に歩んでいかなければならないと考える次第です。

(山口良博、遠藤司)



【タイトル横の写真は、第 2 回 FD 研修会の様子】

FD NEWSLETTER Mar. 2017 第 50 号

発行日：2017 年 3 月 15 日

発行者：駒澤大学 FD 推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114